

■第3期中期計画における評価一覧

令和5年8月18日  
横浜市立大学法人評価委員会  
資料 4

評価基準 S: 中期目標を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している  
A: 中期目標を順調に達成している  
B: 中期目標を十分には達成できていない  
C: 中期目標をほとんど達成していない

評価項目	法人自己評価	委員会(案)	評価	コメント
<b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組</b>  13ページ	A	A	A	前半は学部創設・再編をはじめとする新たな体制整備に始まり、後半はコロナ禍をはじめとする様々な困難な事態への対応が求められる激動の期間であったが、大学の総力を結集して教育研究力向上のための様々な挑戦を重ねてきたこと、困難な状況の中でも多くの目標を着実に達成してきたことを評価したい。
			A	大学法人の根幹ともいえる各項目を、中期計画期間で着実に構築した点は十分に評価できる。
			A	教育において特筆すべきは、データサイエンス学部の設置と、全学的なデータサイエンス教育の推進である。研究に関してもメタケアシティ共創拠点事業が開始され、また科研費採択率も高く、地域中核、特色ある研究大学として発展していける力を着実につけている。
			A	ポリシーやカリキュラム見直し、データサイエンス学部の新設によるデータサイエンティスト育成が評価できる。
			A	学部の新設、再編など社会情勢の変化に柔軟に対応し、かつ研究の推進において目標を超える結果を示している。
1 教育に関する取組  13ページ	A	S	A	学部創設・再編後の大学全体として横断的な教育の展開、全学的な質向上の取組が、コロナ禍以降も着実に進められつつあることを評価する。特に、デジタル時代に求められる人材育成に関しては、データサイエンス学部・研究科、全学教育プログラム、社会人教育など、様々な対象・レベルにおいて幅広く展開しており、全学的な特色・強みに高めてきていることは高く評価できる。
			S	一部、未達成指標はあるものの、データサイエンス学部の新設、学部再編、MMサテライトキャンパス開設等、未来志向の施策を次々と実施、教育の質の向上を推進し、何より大学法人の根幹である教育体制の充実ができた。
			A	首都圏初のデータサイエンス学部の設置、そして全学的なデータサイエンス教育への取り組みは高く評価される。学部教育、大学院教育の改善も着実に進めている。領域横断プログラムも充実し、学生満足度も高い。
			S	ポリシーやカリキュラム見直しを行うとともに、データサイエンス学部を新設し、データサイエンティスト育成を行った。文科省のプログラム認定や事業採択のもとで教育を推進した。社会人学生を獲得し、修学支援や奨学金により幅広く学生支援を行った。
			A	学部の新設、再編など社会情勢の変化に柔軟に対応している。
1(1) 全学的な取組				
1(2) 学部教育に関する取組				
1(3) 大学院教育に関する取組				
1(4) 学生支援に関する取組				
2 研究の推進に関する取組  13ページ	A	A	A	我が国全体で研究力の低下が言われる中、目標指標を大幅に超える成果を達成し、研究力の着実な向上が進みつつあることを高く評価する。学内の分野連携とともに、産学官・学外連携による広がりのある研究事業も進められており、今後さらにこのような多様な連携による研究の活性化を期待する。
			A	論文数、補助金採択数等、指標はほぼ達成、大学発ベンチャー創出、他大学との共同研究も推進等、大きな成果と進捗を示した。
			A	産学連携の大型事業（10年間）の採択数、並びに主要学術誌への論文掲載数の増加、更に、科研費採択率の向上に現れているように、様々な研究支援対策がとられ、研究推進体制の充実が見られる。
			A	論文件数が非常に多くなっている。科研費採択件数が大きく増加しており、科研費獲得支援の体制が整備されている。知財専門職の配置、研究・産学連携推進センターの設置などが行われている。
			S	先進医療申請件数だけがわずかに未達であるが、それ以外の指標は目標を大きく超えている。
2(1) 研究の推進に関する取組				
2(2) 研究実施体制等の整備に関する取組				
<b>II 地域貢献に関する取組</b>  13ページ	A	A	A	地域志向教育やボランティア育成・派遣による人づくり、地域コーディネーターや教員地域貢献活動支援事業の活用、みなとみらいサテライトキャンパスの開設など、地域貢献のための体制整備や多様な活動の展開に努力しており、特に学生が地域貢献の担い手として活躍していることは評価される。サテライトキャンパスは多様な役割を果たしうると考えられ、社会との結節点や協働の場として今後様々な活用に挑戦することを期待している。
			A	全ての指標を達成し、また地域貢献コーディネーターの配置等を通じ、地域志向の様々な取組が確実に根付いている点を評価。
			A	地域志向科目の全学生必修化や、学生ボランティア支援独自プログラムの成果によるボランティア数の増加がみられる。地域実践研究も着実に伸びているが、エクステンション講座については、特に、市との連携講座の伸び悩みが見られる点、方針転換も含んで方針の検討が必要かと考える。
			A	地域志向科目の充実、ボランティア支援室の活動の結果、ボランティア派遣数が非常に大きくなっている。横浜市と様々な連携をしている。
			A	目標を確実に達成している。
<b>III 国際化に関する取組</b>  14ページ	A	A	A	コロナ禍の影響はあったものの、学生が海外で学びやすい環境整備や留学生の就職支援プログラムなどに積極的に取り組んでおり、今後の国際化の加速の基盤づくりが進みつつあると評価する。特に海外高度人材の獲得競争が今後激しくなることが予想される中、留学生支援は今後地域貢献にも大きな役割を果たしていくことが期待される。
			A	コロナの影響で指標は未達はやむを得ない。その中でオンラインプログラムの充実、交換留学先、協定先の拡充など、将来に向けての施策を着実に取り組んだ点は評価。
			A	留学生比率が、目標となる10%を下回ったのは残念であるが、令和4年度に、第2クォータープログラムによって渡航した学生が100名を超えたことは大いに評価される。海外協定校も徐々にではあるが、着実に増えてきた。
			A	コロナの影響により取組みを進めることが困難となった時期もあったが、交換留学先や海外協定校の増加によって第2クォータープログラム、交換留学等長期プログラムなど派遣数は大きくなっている。横浜市と様々な連携をしている。
			B	コロナ禍という扱べき事情はあるものの、留学関係の指標が未達となったのは残念である。

評価項目	法人自己評価	委員会(案)	評価	
			評価	コメント
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組  14ページ	A	A	A	コロナ対応や高度医療の提供、地域医療連携体制の構築などの様々な社会的要請や環境変化の中で、様々な数値を見ても、両病院の力を効果的に活用した取組が進められてきたと評価できる。医学部・病院等の将来構想がこの間の経験を十分に活かしたものとして検討されていくことを期待する。
			A	中期計画後半のコロナ禍の中、神奈川モデル高度医療機関として、重要な役割を果たし、中期計画期間を通し、政策医療・高度医療の推進と提供、地域医療との連携強化等、計画を着実に達成した。
			A	様々な問題を解決すべく附属2病院が連携を取りながら進んでいる。
			A	大学病院として先進医療に取り組んでいる。その一方で地域の中核病院としての機能を果たしている。
			S	コロナ禍で医療を取り巻く状況が混沌としているにもかかわらず、ほとんどの目標を達成している。
1 医療分野・医療提供等に関する取組  14ページ	S	S	S	がんゲノム医療の体制整備、遠隔ICUによる連携推進、最新機器の導入など、高度先進医療機能の充実を着実に進めてきている。コロナ禍で求められる医療の提供についても、ダイヤモンド・プリンセス号への対応から始まり、大きな役割を果たしてきているとともに、一般診療との両立についても、最大限の努力をしてきたことが評価できる。
			S	「がんゲノム」体制の整備、在院日数・外来患者数の適正化を推進し、医療機能の充実、高度医療を提供し、指標も達成。大きく評価できる。
			S	がん医療に関して様々な先進的な取り組みを行い、「がんゲノム医療拠点」に病院として国からの指定を受けた事、救急医療、コロナ感染症対応にも注力し、大学病院、高度急性期病院として充実した医療機能を果たしていることは高く評価される。
			S	がんゲノム医療連携病院の指定、救急医療における救急応需件数の増加、コロナへの対応など医療提供についての取組が進んでいる。大学病院として2病院連携しながら、高度医療や強みを活かした医療の提供を行っている。
			S	コロナ禍の混乱の中でも、確実に診療実績を向上させている。
2 医療人材の育成等に関する取組  14ページ	A	A	A	臨床研修医の確保・養成、専門医の育成、専門・認定看護師の育成など、医療人材の育成・確保を着実に進めてきている。働き方改革など、働きやすい環境整備も進めつつあるが、タスクシフト/シェアなど今後一層の取組の推進を期待する。
			A	「新たな専門医制度」の提供、特定行為研修制度等、優秀な人材確保とモチベーション向上に結果を残した点を評価。
			A	医師、看護師の確保と育成、さらに病院運営をマネジメントする職員の育成に努めた。臨床研修医の確保と育成に関して、初期臨床研修医のマッチング率はほぼ毎年100%/年を達成した。
			A	新たな専門医制度に対応した魅力あるプログラムの提供、初期診療研修医のマッチング率100%達成、特定行為研修の継続、働きやすい環境の確保が達成できている。
			S	コロナ禍の混乱の中でも、確実に目標を達成している。
3 地域医療に関する取組  14ページ	A	A	A	転院調整支援システム導入などにより、病院間の連携も進みつつあると評価できる。コロナの経験を踏まえ、さらに病院間のネットワーク、連携が多面的に進展することを期待する。
			A	病病、病診、看看等の連携を積極的に取り組み、地域包括ケアを踏まえた診療体制の整備にリーダーシップを発揮した点を評価。
			A	ソーシャルワーカーによる転院調整システムを活用し、地域医療機関との連携強化がなされた。職員研修会、病院実習の受け入れ体制の充実、市民向け医療講座の充実、広報機能の強化など努力している。
			A	患者サポートセンターによる病病連携の推進など、地域医療機関との連携が推進されている。地域医療従事者への研修、実習受入など、地域の拠点病院としての活動が継続的に行われている。
			S	コロナ禍の混乱の中でも、確実に目標を達成している。
4 先進的医療・研究に関する取組  15ページ	B	B	B	先進医療に関する研究は、全体としては着実に進められ、トランスレーショナルリサーチ推進の体制整備も進められつつあるが、臨床研究中核病院の申請取り下げをせざるを得ない状況にいたったことは残念であり、これをバネとした今後の取組の加速を期待する。
			A	一部、指標が未達に終わったものの、コロナ禍の中、息の長い取組が求められる中、着実により高い水準の医療の向上・提供を進めている。
			B	先進医療機関申請件数が目標に届いておらず、臨床研究中核病院の承認には至らなかったのは残念である。基礎研究から臨床応用に向けたトランスレーショナルリサーチの推進にはつとめ、新規治療の受け入れの拡充は進んでいる。
			A	附属病院、センター病院ともに先進医療の取得に向けた取組を行っている。戦略相談室を設置し、医師と弁理士を配置している。治験新規受入件数は目標を概ね達成した。臨床研究中核病院の申請を行い、承認には至らなかったが課題解決は進んでいる。
			B	特定臨床研究は、大学病院に求められる重要な使命であり、今後の奮起を期待したい。
5 医療安全・病院経営に関する取組  15ページ	A	A	A	患者サポートセンターを開設して、相談体制を充実するなど、患者本位の立場に立った取組が推進されていることを評価する。平均在院日数などの目標も達成しており、効果的な病院運営がなされていると考えられる。
			S	患者満足度も、後半のコロナ禍を考えると高い水準。そんな状況で、ほぼ全ての指標を達成した事は大いに評価できる。
			A	患者本位の医療として、オンラインを活用した患者家族との情報共有などに努めた。病床の効率的運用、適切な料金設定の検討、人件費管理、医療機器・医薬材料等の購入など2病院の連携強化が行われていることは評価出来る。医療安全についての講演会の出席率も高い。また個人情報の適正管理にも努めている。
			A	臨床倫理コンサルテーションチームが立ち上がっている。患者サポート体制の整備、待ち時間の解消などに取り組んでいる。課題をプロジェクトによって解決し、また、データ分析による効率的な経営を実現している。働き方改革への対応を進めている。
			S	コロナ禍の混乱の中でも、確実に目標を達成している。

評価項目	法人自己評価	委員会(案)	評価	
			評価	コメント
<b>V 法人の経営に関する目標を達成するための取組</b> 16ページ	A	A	A	教育・研究・医療それぞれに大きな変化や難しい状況に直面する中、法人経営はかつてなく難しい状況にあるが、様々な取組や指標をみても、理事長・学長のリーダーシップが適切に発揮できる体制づくりが進められ、円滑な経営が実現できていると評価される。
			A	コンプライアンス・人事関連等は、残念ながらこの中期計画期間でもあまり変化はなかったが、コロナへの対応の中、財務内容改善への成果は数字にも出ており、今後大いに期待。
			A	コンプライアンス推進担当を新設して、内部統制システムに関する規定を制定するなど、ガバナンス強化を行なった。また学生向けWeb決済システムの運用開始、寄附獲得に向けた障害活動の推進に取り組む成果をあげた。
			A	社会の要請を満たしつつ、収支に問題がない経営ができています。
			A	理事長・学長のリーダーシップが発揮できるような体制づくりに進展が見られる。
1 業務運営の改善に関する取組 16ページ	A	B	A	ガバナンス強化の組織体制やダイバーシティ推進体制の構築に取り組んできていることを評価する。特にダイバーシティの推進については、目標達成に向けてさらに効果的な推進方策の構築を期待する。
			B	人材育成、人事制度、コンプライアンス推進等に課題を残したが、コロナ禍の中、ダイバーシティ推進、SNS活用、テレワークの導入、ガバナンス強化と出来る施策は着実に実施した。
			B	大学からの情報発信や、大学ブランドイメージや知名度を上げるための広報を含めた施策が、まだ弱い。ダイバーシティ推進室の設置は評価できるが、達成指標として、「女性教職員の管理職の%」ではなく、もっと具体的な施策についての数値目標を指標として立てた方が、より詳細な状況判断が可能になると考える。
			A	コンプライアンス推進委員会の体制見直し、危機管理規程の改正や危機管理計画の策定、人材育成PLAN作成、ダイバーシティ推進室の設置をしている。キャンパスマスタープランの策定などを行い、大学発展に向けた施設・設備に関する計画策定が行われている。
			B	監査体制の明確化などコンプライアンスの一層の推進が望まれる。
1(1) コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組				
1(2) 人材育成・人事制度に関する取組				
1(3) 大学の発展に向けた基盤整備に関する取組				
1(4) 情報の発信に関する取組				
2 財務内容の改善に関する取組 16ページ	A	A	A	外部資金の獲得、病院経営上の努力など様々な努力がなされており、財務内容は良好に保たれてきたが、昨年度からの物価上昇など経費増加要因があるため、さらなる改善の工夫・努力が期待される。
			A	ファンドレーザ雇用、大学基金設置等により、外部資金獲得にこれまでにない成果を収め、今後の財務改善に大きな前進を示した。また、経費削減努力も評価。
			A	外部資金の獲得も良好、ファンドレーザの働きもあって、寄付金額も大きくなっている。
			S	寄附金の獲得ができています。価格高騰という環境においても、収支均衡を保つことができている点が高く評価できる。
			A	もともと財政の自由度が低い中で経営改善に向けた努力が見られる。
2(1) 運営交付金・貸付金に関する取組				
2(2) 自己収入の拡充に関する取組				
2(3) 経営の効率化に関する取組				
<b>VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組</b> 16ページ	A	A	A	適切に自己点検・評価がなされており、大学機関別認証評価においても適合性評価を受けた。
			A	特段の問題はない。
			A	第3期中期目標期間の最終年度として、また第4期への接続を考慮しながら、厳密な進捗管理を行なっている。
			A	計画に対する実績の評価を適時に反映する体制を整えている。
			A	概ね適切に対応されている。
<b>○ 総合的な評価コメント</b>				
教育組織の再編・新設、コロナ禍・国際情勢・デジタル化等の大きな変化への対応など、大学・法人にとって重要かつ難しい期間であったが、データサイエンス教育の多面的展開、国際的研究論文の増加・連携拡大などの研究力の向上、コロナ対応を含む社会的要請に応える医療の提供など、大学としての強みを築き、新たな地平を切り拓くことにつながる様々な取組がなされてきたといえる。ただ、これらの取組・成果は必ずしも社会に十分認識されているとは言えず、社会的発信力のさらなる強化が期待される。				
全体としては、中期目標を十分に達成していると思う。後半のコロナ禍が中期計画当初の状況を大きく変えたため、数値目標にはかなりの影響を与えたが、そんな中、使命感を持ってコロナに対処し、出来得ることは着実に実施した点も評価に値する。				
第3期は、大学の大きな使命である教育と研究を進めるため、様々な取り組みを行ない、全学的に大きな成果をあげた。教育において特筆すべきは、首都圏初データサイエンス学部新設と、国際総合科学部の再編である。研究においては、主要学術雑誌への掲載論文数の増加、科研費獲得率の増加等に成果が表れている。さらに、当該学部・大学院だけでなく、全学的なデータサイエンス教育の推進は、現代の社会における大学のステークホルダーのニーズに応えるものであり、高く評価出来る。また第3期は、ほぼ半分の期間が新型コロナウイルス感染症対策に追われる状況にあったが、この間、全学を挙げて、オンラインを用いるなど、様々な施策をとることにより、できる限りの成果をあげようと努力された事に敬意を表する。				
第3期においては様々な取組を行い、目標を達成している。特にコロナの影響によって目標達成が困難な状況もあったと思われるが、第3期という期間においてしっかりと成果を出すことができています。教育の分野では厳しい環境となりつつあるが、持続可能性や教育・研究の活動に問題はみられない。病院についてもコロナの影響がある中でも、先進医療を含む十分な医療提供を行うことができていたと考えられる。横浜市、地域との連携も十分にできており、横浜市立大学としての役割を果たすことができていると考えられる。				
コロナ禍で先の見通せない状況に関わらず、高度な診療体制を維持し、手術件数などの目標を達成した2病院の取り組みは賞賛に値する。				